

## 式 辞

第三十六期生、卒業生の皆さん、

「卒業おめでとうございます。」**【礼】**

『卒業証書授与式』を挙行し、保護者の皆様、「ご来賓のご臨席のもと、一五五名の卒業生の門出を祝うことができ

ますことを、教職員一同、心より喜んでおります。

「ご臨席の保護者の皆様、本日は、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。」**【礼】**「ご誕生から十五年間経ちま

した。誕生日とともに、人生の節目、義務教育修了の今日、十五年間の喜びとご苦勞含めて、この良き日を迎えられましたこと、祖父母様も含めてご家族の方々に心からお祝いを申し上げます。」**【礼】**

松尾中学校での三年間、至らぬ点多々あったと思いますが、格別のご理解とまたご協力をいただきましたこと、感謝申し上げます。

竹内まりやさんという歌手の、「人生の扉」という歌は

『春がまた来るたび　一つ年を重ね　目に映る景色も少しずつ変わるよ』で始まります。

人生の門出は、希望に満ちているとともに、ときに痛みを伴うものです。慣れ親しんだ友人との別れ、新しい場所での不安などです。竹はひととき成長が止まったかに見える冬に力を蓄えて節目を作っていく、その時期を突破して生長するように、人生の逆境に見舞われたときなどマイナスの体験こそ、新しい自分と出会うことができる成長のチャンスなのです。このことは青年前期にある皆さんだけでなく、何歳になっても同じなのです。

「人生の扉」はこう続きます。

『二十歳になったときは全てが楽しかったわね。あなたは「素晴らしいのは三十歳よ」と言っし、みんなは「自分を愛おしく思えるのは四十歳よ」と言っけど五十歳も悪くはないわよ』

さらに続きます。

『「元気な六十歳になりたいわ」と言ったら、あなたは「七十歳になっても大丈夫よ」って言うし、みんなは「八十歳になったってまだまだ楽しいわよ」と言うけど、でも私は九十歳を過ぎても生きていくつもりなのよ。』と。

義務教育を終えた皆さんには、二十歳は想像できても三十歳、四十歳は遠い先のことと思えるでしょう。私が伝えたいのは、「人生はいつも『今からここから、そして、年齢フリー、年は関係ない』ということです。

卒業という節目にあたり、「人は何から、どういうことから学ぶか」ということについて三つ話します。

一つ目は、「人」との出会いです。「人生は出会いと縁」です。出会いこそ宝です。待っていてはいけません。自分から求めて、一歩踏み出してさまざまな人と出会ってください。良い出会いを得るために必要なことは、あなた方自身の在り方です。具体的には、「笑顔で過ごす、好きなことをして生きる」ということです。これからも生涯にわた

る良き友と出会ってください。

二つ目は、「本」からの学びです。一冊の本が、言葉が人生を変えることもあるのです。特に、歴史を学ぶことはどんな職業に就いても、どんな世界に行っても大切です。古典と言われるものの中に人間の生きる型、そのときどう動くかの判断など未来に生かせることが詰まっています。

三つ目は「旅」です。これは、見知らぬ場所に旅行して視野を広げるということだけではありません。現場に足を運ぶ、ということです。リモート、ズーム等を活用するとともに、忘れてはいけなはのは、そこに行って体感すること、今いる場所から出かけるということです。「えんとつ町のプペル」という物語がありますが、『あの雲の向こうに星なんかあるわけない』という昔からの言い伝え、世間の常識に徒<sup>いたずら</sup>に流されないためには、前例がなくても、賛同者がいなくても、ときに信じた道に失敗を恐れず挑戦していくことです。人生の旅に一歩踏み出すのです。

「人」「本」「旅」覚えていてください。

不自由な思いをさせた一年でしたが、修学旅行と体育祭という行事ができたことは喜びの一つです。修学旅行は三度目の正直、いきのしま 壱岐島をはじめ大刀洗平和記念館、門司港レトロ、多くのことを学びましたね。そして何にもまして同級生とエンジョイできた経験、一生の思い出になりました。体育祭も三年生を中心とした、松尾中学校のリーダーとしての奮闘に心が震えました。

『「人生の扉」の歌の終わりに、「人生には何の意味もないのよ」という人がいるけど、「生きることとは価値があること」だって信じているの。』とあります。

筑波大学名誉教授の村上和雄さんが、「人間は三十七兆個の細胞からできていて、遺伝子はそれぞれの役割を果たすことで個体を成り立たせている。人間社会も一人一人果たすべき役割は違いますが、それらを補い合い、チームと

して協力して世の中は動いていくのです。コロナ禍であるからこそ、この、利他の心、貢献する生き方が大切なのです。」と語っておられます。同じ仕事をしていても、自分が食べるためだけに仕方なくこなしている、ではなく「人の役に立ちたいという想い」ですと、それが生きた仕事になるのです。

人は、誰かのため、と思ったとき、自分の限界を超えられるのです！

皆さん一人一人は例外なく、何ができなくても、何を持っていなくても、存在していることそのものが尊いのです。全ての人は生を受けたとき、「天命」「使命」が与えられているのです！

今日からの人生に、「幸あれ！」と祈ります。

最後になりましたが、中務会長はじめPTA本部役員の皆様には、今年度今までにない異例ずくしの一年でしたが、臨機応変に対応してくださいました。感謝しております

す。**【礼】**

私ごとになりますが、今年度末で三十八年の教員生活を  
終えることになりました。教職員の皆様、長い方でも三年  
という短い年月でしたが、森田教頭先生始め皆様に支えら  
れて年度末を迎えることができました。この場を借りて御  
礼を申し上げます。**【礼】**

松尾中学校が最後の中学校で幸せでした。

今後は、さらに、この松尾中学校を「子どもたちが通い  
たい、保護者に信頼され、地域に愛される学校」となりま  
すよう盛り上げていってくださいますようお願いして、式  
辞とさせていただきます。

卒業生の皆さん、この「晴れ」の日、新たな旅立ちのと  
き、本当におめでとうございます！

令和三年三月十五日

京都市立松尾中学校 校長 鈴木 克治